

# 日本女子教育の先駆者 『堀越千代 自営の心』が 岩手日報社より出版される



# 正覚寺寺報

発行者  
浄土宗十劫山 正覚寺  
020-0066  
岩手県盛岡市上田  
2丁目5-12  
TEL 019-624-5001  
FAX 019-624-5003  
発行 令和5年4月

正覚寺に記念碑が建立された和洋学園の創設者である堀越千代先生の功績とご生涯をたどる『堀越千代 自営の心』日本女子教育の先駆者―が岩手日報社より出版されました。堀越千代先生は、上田で盛岡藩士、村野儀兵衛の一男四女の末子としてご誕生されました。

この本の出版を記念し、谷藤裕明盛岡市長と和洋学園理事長である長坂健二郎先生の特別対談が盛岡で行われました。また東京から長坂理事長先生をはじめ和洋女子大学同窓会長の■梨禮子氏・同窓会 岩手県支部長の菊池房江氏、原敬記念館 元館長である木村幸治先生をはじめとする方々が正覚寺を訪れ、ご献本を頂いております。創立126年を迎える和洋学園を創った堀越千代先生は生涯を教育一筋に生き、多くの女性に職業婦人として社会に貢献し、自立した人間として生きる希望を与えました。今でも女性の社会進出には困難が多いですが、明治時代に、新時代に相応しい洋裁を学び、これを普及させ、洋裁教育の先鞭をつけるという偉業を達成されました。このような女性が盛岡の上田から輩出されたことは郷土の誇りです。現在、和洋学園は、大学院・大学の他、高校・中学を各2校擁しています。和洋学園ご出身の学校教員は多く、堀越高等学校は芸能界やスポーツ界では誰もが一目置く高校です。正覚寺壇信徒の皆様は是非、この本をお手にとってお読みください。



## 婦人会の 浄財を 施設に寄付

正覚寺婦人会の皆様から

御寄進頂いた浄財を、2つの施設に5万円づつ合計10万円寄付して頂きました。一つは盛岡市北山にある「善友乳児院」です。この施設は、様々な事情によって保護者が育てられない乳児を育てている施設です。この施設では、0歳の乳飲み子から小学校就学前までの子供を預かっています。

もう一つは、加賀野にある児童養護施設「青雲荘」です。青雲荘は、乳児を除いて、保護者のいない子供や虐待を受けている子供など様々な理由で家庭で暮らすことができない子どもを預かっている施設です。どちらの施設も親と共に暮らすことのできない子供達のための施設です。私は仕事でこういった施設育ちの子供達と接しています。今は、福祉が充実しており、服装や持ち物は、普通の子供達と同じで、町で会っても施設の子供だとは全く気づきません。

建物も昔と比べ立派で、冷暖房完備の充実した生活環境です。しかし親が身近に居ないハンデキャップはあり、職員の方々が献身的に世話されていますが、一人が何人もの子供達の世話をしなければならぬので、本当の親とはどうしても違います。また原則、成人すると一人で自立した社会人として旅立つ必要があります。施設の方々によると、事故で両親を亡くした子供もいますが、一方では、虐待やネグレストといった親が未熟で、親の責任を果たせないケースもあるようです。親が親権を放棄すると、養育者との関係がずっと安定して続く特別養子縁組ができる道が開かれます。問題ある実親との親子関係が消滅し、新しい両親のもとで安定した環境が子どもに提供されます。しかし、親権を手放さない親が多

いようです。私が施設を見学した際、幼い子供達が寂しそうな目でこちらを見つめた顔が忘れられません。こういった施設は国や県から補助金を受けている関係上、支出項目が厳密に定められており、自由な使途で使える資金が不足しています。皆様の浄財がこういった子供達のために役立てられます。

正覚寺には間引き地藏尊が奉られています。昔は、飢饉の為、育てられない子供を泣く泣く殺めなければならぬ時代がありました。今は飽食の時代で、食料がゴミとして処分されています。しかし今でも、赤ん坊を遺棄、死亡させる事件は全国的に後を絶ちません。昨年、岩手県でも、自宅を出産した赤ちゃんを袋に入れて遺棄したとして、若い母親が逮捕されています。この母親も相当に悩み、苦しんだ上での犯行ではないでしょうか。彼女を罰しても解決にはなりません。今は一人一人が孤立していて、深刻な問題を相談したくても、出来ない人がいます。人間社会に悩みが付きものです。寺は檀家様のよき相談相手になれればと考えています。



4月10日(月)10時 御忌 正覚寺	7月10日(月)10時 施餓鬼 正覚寺	8月13日(日) 迎え盆	8月16日(水) 送り盆	9月20日(水) 秋彼岸入り	9月23日(土) 彼岸中日	9月26日(火) 秋彼岸明け	10月10日(火)10時 お十夜 正覚寺	12月31日(日)10時 大晦日法要 正覚寺	1月1日(月)10時 新年法要 正覚寺	3月17日(日) 春彼岸入り	3月20日(水) 彼岸中日	3月23日(土) 春彼岸明け
--------------------------	---------------------------	-----------------	-----------------	-------------------	------------------	-------------------	----------------------------	------------------------------	---------------------------	-------------------	------------------	-------------------

令和5年度  
(2023)  
十劫山 正覚寺  
年間行事予定

# 盛岡城の隠し砦

柴内宏治

いつの時代も非常時に備えて手はずを整えておくことが必要です。盛岡南部藩でも城が落城した場合に備えて、殿様や奥方、お世継ぎが落ちのび、再起を図るため、隠し砦を準備していました。この最初の脱出先が盛岡妙泉寺です。場所は岩山の展望台に上る途中にあり、近くに浄水場があった、その裏手になります。

この妙泉寺を知る人は少なく、残念ながら現在、このお寺は廃寺となっております。しかし、ご本尊大日如来様は大切に正覚寺でお奉りしています。この仏様は盛岡城の守り本尊であり、盛岡城大日社といえます。後に盛岡妙泉寺の本尊とされました。妙泉寺の廃寺後、藩士である正覚寺檀家衆によって当山に遷座し、妙泉寺の場所は同じく南部藩士の出である三田義正によって別荘として使用されました。現在は岩手中・高等学校の所有地となっています。高校山岳部が合宿所として利用していますが、職員でも迷子になる場所です。周囲は鬱蒼とした森となっており、山の陰に隠れ、昼なお暗く、人を寄せ付けない荘厳な雰囲気です。

この盛岡妙泉寺は、江戸時代、岳明泉寺の山伏（早池峰山の山伏）の宿寺（盛岡出張所）として使われ、歴代盛岡藩主の保護により、祈禱や修験を行っていました。周囲には足軽組屋敷が置かれ、ここに配置された足軽は鉄砲足軽でした。伝説ですが、お城からこの寺まで秘密の地下道があったという話があります。

南部利直は、南部家の跡目争いである九戸政実との戦いに勝利し、盛岡に居城を整備しました。当初、この戦いは九戸方が優勢で、何度も利直は窮地に追い詰められています。これを救ったのが山伏で、情報に精通し、武術に秀で、山伏だけが知る忍び道が方々に張り巡らされていました。こうした山伏に救われた利直は、豊臣配下の蒲生氏郷の加勢を得て、政実に勝利します。利直は、正月には盛岡城に山伏を招いて神楽による祈禱を行い、御用神楽としていました。その後、岳妙泉寺の山伏は南部家から異例の好待遇を受けており、もう一つの妙泉寺である遠野妙泉寺との優先論争にも勝っています。このことから利直勝

利に貢献したのが、岳系統の山伏集団であったと類推されます。

さて脱出路の続きの話をしていきましょう。想定では、脱出に気づいた敵に対し、味方足軽が鉄砲で時間稼ぎをします。この間に、殿、お世継ぎ、奥方は、盛岡妙泉寺から山伏に護衛されて、山ルートで、岳妙泉寺を目指します。岳妙泉寺は、現在、早池峰神社となっております。現在でも江戸時代の建物を残しており立派な神社ですが、江戸時代の岳妙泉寺は城普請されていました。周囲に堀を巡らし、石垣に櫓門をもった堅固な城と言えるもので、周囲には山伏屋敷が配置され、常に警備されていました。

私が祖父や檀家の古老に聞いた話はここまでです。また南部藩士の親睦団体、「士族桑田」の機関誌にもこのことが記載されています。しかし、早池峰神社の資料館には、なんとこの続きの話が展示されていました。岳妙泉寺から宮古領小国村より忍び道が存在し、宮古には、南部藩の御用船が二艘あり、水主五人が取り立てられていたとする古文書の存在です。なんと南部藩は、さらに海から脱出する準備をしていた。その先はどこに行く予定であったのか気になります。

このような伝説を伝える盛岡山伏は明治5年の修験道廃止令によって、解散させられました。山伏は公式には存在を否定され、神職や漢方薬の販売で糊口を凌いだようですが、その伝統や、詳しい記録の多くは散逸してしまいました。しかし正覚寺では、今でも、吉祥日に大日如来のお山である早池峰山に「六根清浄」をお唱えしながら登り、奥宮に参拝しています。前回の登山でも私が袈裟をつけて奥宮でお参りしました。それを見た登山客は「何で、神

様の山なのに袈裟をつけた坊主がいるのか」と言わんばかりの目で見られました。檀家の皆様は、このような経緯があることをご記憶ください。あればありがたいです。



# 歩行瞑想の勧め



人生、悩みや不満はつきもので、悩みや不満が蓄積した心のドロドロはほんどん溜まります。これは掃除をサボった家と一緒ですので、不潔で、精神衛生上、不健康です。このドロドロは周囲を汚染し、悪い言葉を周囲に投げかけたり、意地悪な行為となって現れます。そこで、たまに掃除をしてゴミを捨てましょう。心が快適で、周囲との人間関係も良くなります。

では心の掃除とは何でしょうか。古来仏教では、この掃除の方法として、瞑想があります。「三昧」とも漢訳され、インドの言葉でサマーデーイです。念仏三昧も瞑想法の一つで、よくお寺で念仏をひたすら唱えるのは瞑想法でもあるわけです。

この瞑想ですが、座禅も一つの方法で、有益ですが、足が痛くなり、習得には修行が必要です。そこで簡単な方法として、「行道」があります。これは僧が行列して経を読みながら仏殿の周囲を歩く修行法です。行道とは「歩行瞑想」であり、歩行瞑想の基本的な行い方を紹介します。

お寺で無くとも家の中や外でも実践できるのです。ぜひお試しください。まず「どこを歩くのか」を決めましょう。我々僧侶は時計回りに仏像の周囲を歩きますが、別にどこでも構いません。「テープルの回りを4、5回でもOK」仏教の修行法では、自己を観察することが求められます。歩きながら足裏の感覚に注意を向ける。どこに足裏の重心があるか。意識を集中します。感覚をかかるとからつま先まで、観察して丁寧に感じ取ってください。歩くことで生じる事象に意識

を向けて歩くのです。暫く歩くと、考えごとや雑念が湧いてきます。苦痛も生じることがあります。雑念を払うことはせずに、価値判断せず、受け入れて、また足に感覚を集中してください。雑念↓雑念に気づく↓価値判断しない↓足裏を観察↓雑念 このとき呼吸を整えらると良い瞑想が得られます。息を吸いながら「右に一步 左に一步」と2歩、息を吐きながら「右↓左↑右↓左」と4歩歩きます。こうすれば自然に腹式呼吸となり、深い呼吸が得られます。つぎに自分の行為を一つ一つ言語化(状況中継)してみましよう。瞬間の出来事を言葉に表すのです。足が着いたときは「着いた」、足が離れたときは「浮いた」と心で言います。これを先ほどの呼吸を吸いながら右、左、今度は息を吐きながら右、左、右、左、歩数を合わせながらリズムを取りながら行ってみましょう。終わると不思議、少し心が穏やかになってまいります。雑念ができる悩みや不満の原因は「我にある執着」が原因。執着を捨てれば、悩みや不満は無くなり清々しい境地に入る。自分のことも思い通りに行かないのに、息子、娘、両親、友人、知人のことなど思い通りになるはずが無い。一步、二歩と歩くことで仏の世界に心が近づく。ついでに血圧も下がる。明るく生きる手立てとして、歩行瞑想を実践されてはいかがでしょうか。

## 2023年 年回表

一周忌	令和4年	2022年
三回忌	令和3年	2021年
七回忌	平成29年	2017年
十三回忌	平成23年	2011年
十七回忌	平成19年	2007年
二十三回忌	平成13年	2001年
二十七回忌	平成9年	1997年
三十三回忌	平成3年	1991年
三十七回忌	昭和62年	1987年
四十三回忌	昭和56年	1981年
四十七回忌	昭和52年	1977年
五十回忌	昭和49年	1974年